

政務活動報告書

令和8年1月9日

加須市議会議長 竹内 政雄 様

公明党加須市議団
代表 大内 清心

公明党市議団は、下記の通り政務活動を終了したので報告いたします。

記

- 1 期 日 令和7年11月4日・5日
- 2 調査箇所 (1) 静岡県三島市「スマートウェルネスみしまについて」
(2) 愛知県蒲郡市「サーキュラーシティ蒲郡について」
- 3 調査者 大内清心 池田年美
- 4 調査事項及び所見

今回、公明党加須市議団は、初日に静岡県三島市を訪れ、あらゆる分野に健康の視点を取り入れる「スマートウェルネスシティ構想」による“健幸”を都市づくり施策の柱に位置付けたプロジェクトについてお話を伺った。

二日目は、愛知県蒲郡市を訪れ、市の発展に寄与する教育、消費、健康、食、観光、交通、ものづくりの7つの重要分野のもとにサーキュラーエコノミーの推進と、それぞれの取り組みを並行して進めて相乗効果を生みながら「ウエルビーイング」の実現を目指す取り組みについてお話を伺った。

今回の視察で学んだことを活かして、より良い加須市づくりのための提案をしていきたいと思う。

5 静岡県三島市「スマートウエルネスみしまについて」

(1) 静岡県三島市の概要

三島市は、静岡県東部にある人口約 11 万人、伊豆半島の北端部に位置し、かつて伊豆国の国府が置かれた。隣接する沼津市を中心とした沼津都市圏に含まれる。新幹線駅である JR 三島駅から品川駅まで 37 分でアクセスすることができる。当市は太平洋側気候に含まれている。一般的な太平洋側の気候は、夏は温暖多雨で、冬は雨が少なく乾燥しやすい。当市は駿河湾から北東にやや内陸部に入ったところにあるので、海に面した近隣の地域と比較して、1 日の最高気温と最低気温の差である、比較差が大きい。夏は気温が高く、冬は冷え込むなどの内陸性盆地気候の傾向がある。ただし三島の年間平均気温は 16.3℃で、最低気温の平均が零下になることはほとんどない。

(2) スマートウエルネスみしまの位置付け

第 5 次三島市総合計画では重点プロジェクトとして「スマートウエルネスみしま」を位置づける。スマートウエルネスプロジェクトとは、ウエルネスをまちづくりの中核に位置付け、保健・医療分野だけで個人の健康増進を図るのではなく生活環境や地域社会、学校や企業など、あらゆる分野を視野に入れた取り組みにより、都市そのものを健康にすることで、市民が自然に健康で豊になれる新しい都市モデルを構築しようとする考えである。

①健康づくり

「歩ける 100 歳」プロジェクト ～スポーツによる健康づくり～

○歩ける 100 歳会議の設置

- ・ライフステージごとの既存事業の体系立てた整理と見直し
- ・スポーツ事業に関する切れ目ない事業実施と戦略的周知

○スマート女子 応援プロジェクト

- ・女性が働きやすい職場環境づくりの勧め
- ・企業向けの説明会の実施

②いきがい・きずなづくり

○コミュニティデザインみしまプロジェクト～世代を超えて人と人が繋がる地域～

- ・コミュニティデザインの調査・研究。講師による講演
- ・相談窓口の設置→市民活動センターにアドバイザー機能付加
- ・希望自治会募集・決定、自治会役員等へのヒアリング
- ・地域住民のニーズ把握調査（イベントに関わりたい調査）

③地域活性化・産業振興

○健康をタテ・ヨコ展開～従業員の健康は企業の健康 取り組み事例～

<タテ展開>

- ・測定、講座等出張サービス・健康経営リーダー制度開始・企業への取材
- ・モデル事業と市のサポート体制の PR・PR 動画の作成

<ヨコ展開>

- ・金融機関や商工会議所を通じた PR
- ・高校生への PR

○共にまちを育てるプロジェクト～まちの価値向上と人材育成～

- ・庁内組織の設置、まちづくりビジョン検討
- ・関係者等との検討開始、ビジョンに基づく取り組み等検討
- ・商店街など既存の組織との連携等の検討
- ・ビジョンの共感者を活動する人（プレイヤー）育成

④総合的な取り組み

○健幸 DX の推進～みんなで楽しく健幸づくり～

- ・健幸づくり無関心層へのアプローチ
- ・ヘルスリテラシーの向上と健康活動の定着化
- ・生活習慣病予防への積極的活用
- ・1 次予防からゼロ予防へ

(3) 視察を終えて

今回視察した三島市は、「シティブランド・ランキング 住みよい街 2025」で県内 1 位、全国 28 位の魅力ある都市である。市は特に、人もまちも産業までも健康で幸せなまちを目指すウエルビーイングの実現と持続可能な都市づくりに力を入れている。三島駅周辺には季節の花々が咲き、街中には綺麗な小川が流れせせらぎが聞こえる。歩きたくなる環境づくりを市民協働でつくっている。美しい街をつくることで出歩きたくなり、出店したくなるための仕組みとなっている。街の特性を活かし市民の健康で幸せな生活を目指した素晴らしい取り組みだ。加須市にも加須市なりの魅力や特性がある。それらをもっと引き出し「加須市に住んで良かった」と市民に思ってもらえる街づくりに取り組んでいきたいと思った。



6 愛知県蒲郡市「サーキュラーシティ蒲郡について」

(1) 愛知県蒲郡市の概要

蒲郡市は本州のほぼ中心に位置し、渥美半島と知多半島に囲まれた温暖な気候の海辺の街です。

面積は 56.96 km²で、人口は約 77,000 人です。

温暖な気候を生かしたフルーツ栽培がさかんで、特にハウスミカンが日本有数の出荷量を誇ります。

昭和 29 年に三谷町・蒲郡町・塩津村が合併し、市制が施行されました。

昭和 30 年に大塚村の大字相楽・大字大塚地区、昭和 37 年に形原町、昭和 38 年に西浦町が合併し、現在に至っています（各市町村・地区の呼称は合併当時のもの）。

海辺のテーマパーク、温泉地、競艇場を有する蒲郡市には、観光や娯楽を目的に市外より多くの方が訪れます。

平成 26 年 3 月末には、国道 23 号蒲郡バイパスが蒲郡インターチェンジまで開通し、西三河地域や名古屋圏との相互交通アクセスが一層容易となりました。これにより、蒲郡市の観光や地場産業のさらなる発展が期待されています。

古くからの漁師町や、繊維工業で栄えた街を起源としており、限られた平地部に集中して市街地が形成されています。また東海道本線、名鉄蒲郡線などの公共交通も充実しており、コンパクトな都市となっています。

(2) 視察内容「サーキュラーシティ蒲郡について」

①内容

サーキュラーシティ蒲郡では、「蒲郡市に関わるすべての方々のウェルビーイングの実現」を最終的な目標に掲げています。そして、ウェルビーイングを叶えるためには、「経済」「社会」「環境」それぞれで最適なバランスを保ちながら都市として繁栄することが重要です。サーキュラーシティ蒲郡のアクションプランでは、蒲郡市の発展に寄与するテーマとして7つの重点分野を設定しました。それぞれの重点分野が互いに影響を与え合いながら、地域への愛着と誇りを醸成し、人々のウェルビーイングを実現することを目指しています。

②背景・経緯

蒲郡市では、2050年までに温室効果ガス実質排出ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を2021年3月に宣言し、同年11月には、市長がサーキュラーエコノミーを温室効果ガスの排出を実質ゼロにするための手段としてだけでなく、まちづくりに取り組み、蒲郡に関わる全ての人々がウェルビーイングを実感し、このまちを誇りと思う「君が愛する蒲郡」となるよう、「サーキュラーシティ」を目指していくことを表明しました。

③実施方針

「つながる 交わる 広がる サーキュラーシティ蒲郡」をビジョンとして掲げ、7つの重点分野（教育、消費、健康、食、観光、交通、ものづくり）のもとにサーキュラーエコノミーを推進し、それぞれの取り組みを並行して進めて相乗効果を生みながら「ウェルビーイング」の実現を目指しています。最終的な目標である「ウェルビーイング」を叶えるためには、「経済」「社会」「環境」それぞれで最適なバランスを保ちながら都市として繁栄することが重要としています。

ポイント①「ステークホルダーとのワークショップを通じて、ビジョンと重点分野を策定」

蒲郡市が今後の指針となるビジョンと重点分野を策定するため、市内のサーキュラーエコノミーに意欲的な企業・団体を集めて、ビジョンや重点分野を策定するワークショップを開催するなど議論を重ねるとともに、そこからコミュニティ構築につなげました。また、ビジョン策定を通じて、幅広い分野にわたる庁内調整も図りつつ、2022年4月に発足したサーキュラーエコノミー推進室を中心に事業を推進しています。

ポイント②「コミュニティ形成からアクションを生む『サーキュラーシティカンファレンス』」

サーキュラーエコノミーに関するプロジェクトが創出され、取り組みが広がっていくよう、全国から有識者や実践者などを招聘して講演やセミナーを実施する異業種交流イベント「サーキュラーシティカンファレンス」を開催。セミナーによるインプットに加え、サーキュラーシティの実現に向けたワークショップを通して、今後の蒲郡市でのサーキュラーエコノミーの実装に向けたプログラムを検討。カンファレンスを通じて、市内企業と市外の事業者が連携し新たな企業活動も生まれています。

ポイント③「社会実装に向けた実証実験プロジェクト」

サーキュラーシティの実現に向けて、社会実装を目指し、市民や事業者・市が一体で取り組むプロジェクトである実証実験プロジェクトを公募し、実証実験プロジェクトを実施し、2023年度には6件、2024年度には5件のプ

プロジェクトが進められた。

トヨタコネクティッド株式会社による「まつなかモビリティ」推進実証、Curelabo 株式会社によるみかんの剪定枝等の未利用資源を活用し繊維にアップサイクル、サンローズ株式会社による廃棄カーテン生地をウェディングドレスに再活用するアップサイクルウェディングドレスなど、農水産業からものづくりまで幅広い産業分野での実証事業が展開されています。

(3) 視察を終えて

サーキュラーシティ蒲郡では、サーキュラーエコノミーによる多くの事業が展開されています。企業と一緒に、使われなくなった衣装ケースをベンチに変身させたり、市民も参加し不要な衣類の回収（エコミット/パスト）、不用品の整理（メルカリ/メルカリボックス）、市内の小学生とコラボレーションし、10年後の未来の主演である子どもたちがもっと蒲郡市を好きになれるように、小学校 6 年生と 5 年生と一緒に、自分たちにできるアクションを自ら考えチャレンジし、大きな成果を上げていることに感銘しました。

加須市においてもサーキュラーシティ加須を目指して、今後取り組んでまいりたいと思います。

